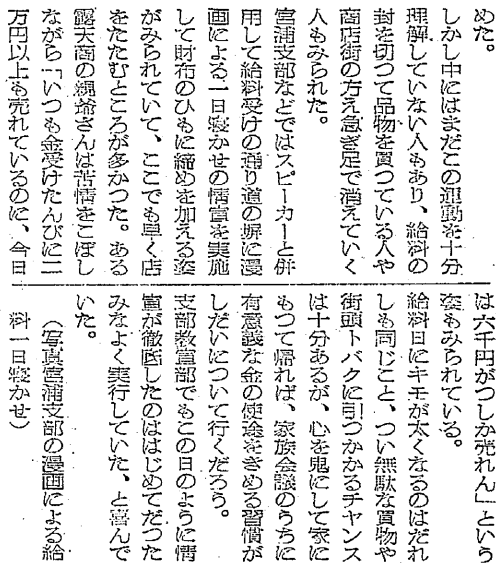




三山對抗弓道大會

第四回三井九州三山對抗選手大會は豊岡と白鷺舞の十二月九日、田川鉱業所病院内三馬場で開催されたが三池の靈気物豪々新記録の成績を収め、山野、田川を圧し豊々の優勝を占めた。

過去三回の成績においていずれも歳少の差で涙を呑み、山野に連続名をなすまじっていたが今回その打倒山野の悲願を達成したものである。

三池は第一一回より優勝候補と認められていたが、本領を發揮し得ず

敗戦していたが、主将の稲葉銀士は次のように優勝の喜びを語つた

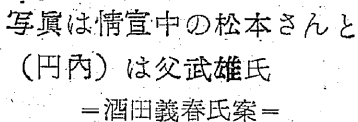
前回にはホームグラウンドに迎へる万全の策が失敗し、万年候補の汚名にあまじっていたが、今回の遠征で新記録により先鞭なきまでに打倒したことばうれし

三池は體々人の技は惚れているが新人が多く、対外試合に緊張が洩いためいざという時に腰がくだけていた。それがベテランの奮起と新人の活躍が完全なチー

頑張れ松本さん親子

今い組合を離れざるを得ない前
回は 境に立たされたが、その父の遺

ツトを足下に転じて組合親子二代としやれてみた。ます何といつても衆目の一致するところは組合本部教宣部で活躍する松本龍男員(31)とその父武雄氏(54)があげられる父親武雄氏はごんじんのように組合結成時の初代組合長として大いに風力されてこられたが、昭和二十六年いままら考えるとまさに無課金でありないう元帥のレッド・バニー旗風のためつするといふくなり、まさに親子二代にふさわしい話題の種であり、反面のしひと時代の流れというものを感ぜさせてくれる龍男氏におおげなながらも組合運動というものを認識させたのはあの終戦の渾沌時二十年の夏から初秋にかけてのときだった。当時いち早く三川鉦組合結成の動きがみられ父武雄氏を中心とする五、六人のメンバーが毎夜松本宅に集り夜中の二時、三時支部の教宣部員後現在の本部教宣部として闘つてゐる。その後廿二年三川鉦に入り、企



銀水園で患者と座談会

ムワークとなつて勝利を収めた
やはり最後の勝利はチームワ
ークにあり、固結の融和はあら
ゆるる闘ひに必要だ。
回の闘ひでつけた選手の自信と
度ば連続優勝とあらゆる試合に
待てきよう。
成績】

優勝	三池チーム	六十九中
稲葉	鯉士 九中	(三川)
田島	五段 九中	(三川)
個人二位	二位	田川チーム 五十九中
三位	山野チーム	五十五中

氏の出席も願つて行われた。
まず座談会は書記長の入替採用に
関する具體的の説明が行われたの
であつたが、薄弱者としてこれに

正月を前に悲しみの遺族

年未年始安強請週間は一日から準備期間にはいり、いよいよ十五日から実施というこの日、皮肉にも三川邸で落盤の要災事故が突発われわれの戦列からまたも一名の尊い犠牲者を出し、正月を間近かにひかえ、職場の仲間たちの涙をに助骨々折、右足の皮下に滲するさ創のため即死された。

家族は新港町で六人家族の楽しい家庭であつたが、正月を目のまきにひかえて、いまあらたに遺族の上に職場、地域の人たちの悲しみをさそつてゐる。

まゝつてゐた。

この日午前零時四十分ごろ探炭工佐土原吉吉さん（新潟町三十四棟四十九才、探炭工）は三川鉱上層西（坑口から約四キロ）六方採でカツペ延長のため掘面に入りたるとき突然四四方の岩石が落離、

三川鉱ではさる十月十九日にも死亡二、重傷傷三（後一名死）の大震災が超つており、まだ二カ月も経つていない今日この犠牲者を出したことに就いて、保安優先の切なる叫びがいま各職場では大きなものとなつてゐる。

下駄となり腰が痛い、顔面擦癢、第二腰膝脱臼骨折、の致命傷ととも煙草何とか遊園地にしようと思ひ立ち、この煙をつくつてゐる杜宅の人たちと役員と一同で二人入交張を付けた。

煙をつくつてゐる人々たちもこの願
いなきまよふ損徳をはなれて入
れてくれた。それでついに十六日
の日曜を利用して汗の華仕が行わ
れることになったのだが、全員が
師走の寒さの中といわずモツコ

クワなことを持寄り愉快な作業が行われた。

もとに一体となつて安定職場を確立せんことを君の霊前に誓ふ

三鈺連第十二回臨時大会

遊園地擴まる

万田保育園に喜びわく
万田保育園（園児一四七名）では、いままで、遊園児のための遊園地が少く、子供たちが十分スポーツや遊戯をたのしむことができなかった。何となくして拡張しなければならぬ事項となり関係者はもちろん、保護者の間でも対策が練られてきた。

る状態でもあつた、これでは駄目だ、保護者が会が立上り、ついに裏腹力を入れ、去る二月十六日曜夜利用して保護者が総動員して拡張作業を行い、おかげで立派な遊園地ができ、以前の遊園地とあつたやうに約二倍のひびきとなり父兄ばかりにおよぼす、園児たち先生たちを驚はせてゐる。まづ保護者会々長藤田茂夫さん（通号分金蔵）は遊園地に隣接する人たちの宿園と二回で二人一人交遊を行つた。畑をつつてゐる人たちもこの願いをいさぎよく理解をはれて入れてくれた。それでついに十六日の日曜夜利用して舟の華仕が行われることになつたのだが、會員が師走の宴の中にもうとゞミツクワなどを持寄り愉快な作業が行われた。

その死は入囂まれている。この震災の報に接し、当時東京で開かれていた三仏連臨時大会および出陣中の富川組合長より急死つきの電報がもたらされてきた。同志佐土原京吉君殉戦の報に接し、慟きと哀悼の意を表す。保安優先を再確認し、全六山統一のもとに一体となつて安定職場を確立せんことを君の靈前に誓ふ

三仏連第十一回臨時大会

けい肺で療養中であつた四山支
武田菊次さん（四山社宅八十八
55才）は療養の甲斐なくつい
六日午後七時三十分死に去され

參加者を圍み

[illegible]